おおはしご

を

開催します！

今年も 9 月 17 日（月）にゆめタウン出雲　太陽の広場＆連絡通路を会場に、「作業療法フェスタ 2018」を開催いたします！広く県民の皆様に作業療法を知って頂く普及啓発活動として始まったこの事業も今年で 8 年目を迎えます。2016 年からは名称を“作業療法フェスタ”とより皆様に馴染んで頂けるものに変更しております。今年のテーマは『人は作業をすることで元気になれる～作業療法と自動車運転支援～』です。

今年も作業療法の事を分かり易く、楽しく学んでいただけるよう様々な催しを企画していますので、関わっておられる対象者の方やご家族・友人の方などお声を掛けて頂き、皆さまぜひご来場ください☆お待ちしております。

作業療法フェスタ開催に向けて

運転と作業療法委員会委員長　和崎　博典

今回の作業療法フェスタは、本年 9 月 17 日にゆめタウンにて県民普及活動と 9 月 29 日（土）、30 日（日）の 2 日間にわたって、寿生病院で開催致します。研修会のテーマは「脳卒中後の自動車運転の再開に向けて～セラピストの役割、他職種との連携～」としました。

近年、高齢運転者が引き起こす重大事故の報道が相次いでいます。2017 年 3 月より改正道路交通法が施行され、リスクの高い運転者への対策として、臨時適性検査制度の見直し、臨時認知機能検査・臨時高齢者講習制度の新設など、特に高齢運転者への重点的な対応が図られています。しかし、買い物や仕事など社会生活を送るうえで自動車運転を必要とするものの、患者様の状態に応じた支援方法は確立していないため、医療現場でも混乱がみられています。その混乱を少しでも改善できるよう努めなければならないと考えています。

講演では徳島県作業療法士会会長の岩佐英志先生に「自動車運転の再開に向けて～停止車両評価と納得した選択への支援～」という演題でご講演いただきます。岩佐先生は四国運転リハプロジェクトのプロジェクトリーダーでもあり、病院敷地内での評価も可能な「停止車両評価」を作成されました。講演内で「停止車両評価」のご紹介・実演もされます。今回の研修会を通して今後、よりよい自動車運転再開に向けた支援が行えるようになればと考えております。

会員の皆様には奮ってご参加いただきますようお願い申しあげます。

『新たな作業療法の定義　決定！』

平成 30 年 5 月 26 日（土）東京・日経ホールにて、一般社団法人　日本作業療法士協会　平成 30 年度総会が開催された。日本に作業療法士が誕生し 50 年が経過した。1985 年に協会が定めたこれまでの定義では、多様化する作業療法の職能が十分に表現できない事由により、約５年の歳月をかけて検討され、改定案が取りまとめられ総会に提出。決議にて以下のように決定した。

作業療法は、人々の健康と幸福を促進するために、医療、保健、福祉、教育、職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である。作業とは、対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為を指す。

「註釈」

・作業療法は「人は作業を通して健康や幸福になる」という基本理念と学術的根拠に基づいて行われる。

・作業療法の対象となる人々とは、身体、精神、発達、高齢期の障害や、環境への不適応により、日々の作業に困難が生じている、またはそれが予測される人や集団を指す。

・作業には、日常生活活動、家事、仕事、趣味、遊び、対人交流、休養など、人が営む生活行為とそれを行うのに必要な心身の活動が含まれる。

・作業には、人々ができるようになりたいこと、できる必要があること、できることが期待されることなど、個別的な目的や価値が含まれる

・作業に焦点を当てた実践には、心身機能の回復、維持、あるいは低下を予防する手段としての作業の利用と、その作業自体を練習し、できるようにしていくという目的としての作業の利用、およびこれらを達成するための環境への働きかけが含まれる。

代議員　楠田敦子

参考

既存の作業療法定義

①　理学療法士及び作業療法士法（1965 年）

「作業療法」とは、身体又は精神に障害があるものに対し、主としてその応用的動作能力又は社会適応能力の回復を図るため、手芸、工作その他の作業を行わせることをいう

②　日本作業療法士協会　定義（1985 年）

作業療法とは、身体又は精神に障害のある者、またはそれが予測される者に対し、その主体的な生活の獲得を図るため、諸機能の回復、維持及び開発を促す作業活動を用いて、治療、指導及び援助を行うことをいう

平成30年度総会を終えて

事務局　陶山　幸弘

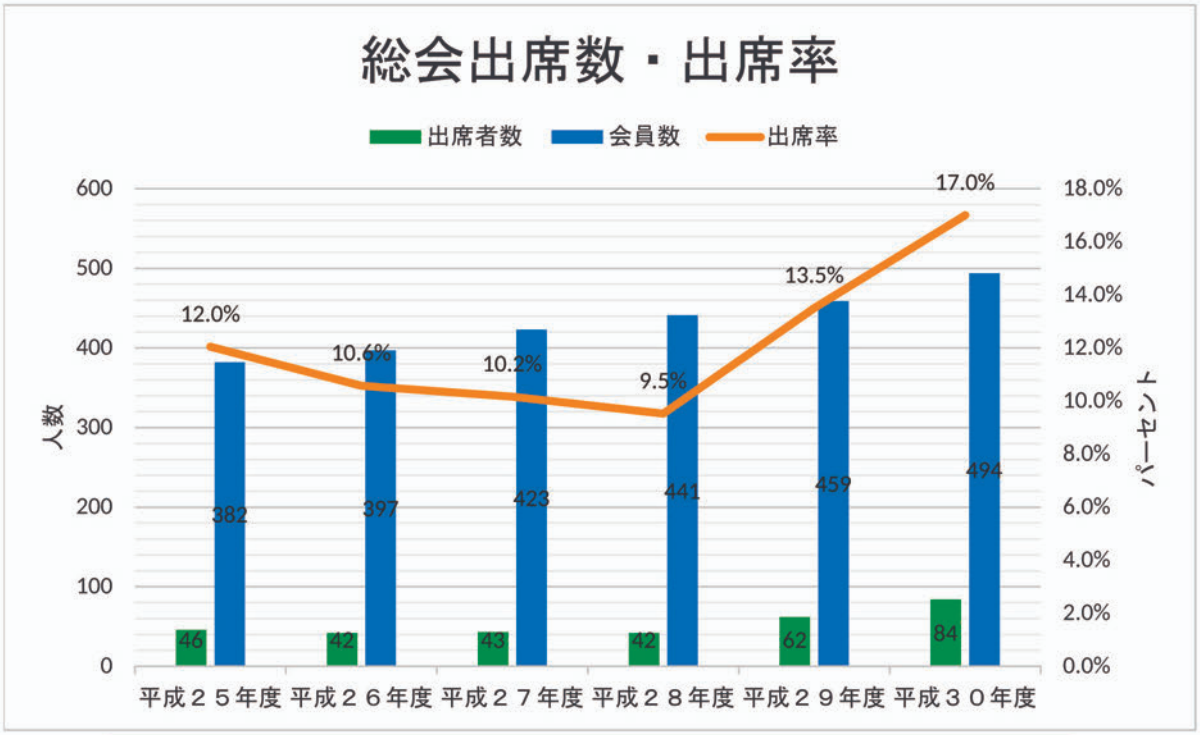
去る６月３日（日）、大田市あすてらすにて、藤原貴司議長（雲南市立病院）、山本豊和議長（松が丘病院）と加藤佑季書記（松江総合医療専門学校）、伊藤春美書記（玉造病院）のスムースな進行・記録の基、平成 30 年度の総会が無事開催された。〔添付１〕

当日は、一人でも多くの会員の方に総会に参加して頂きたく、アセスメントについての研修会・会長講演・保険部研修会などを同時開催させて頂き、例年より多い８４名の参加を頂くことができた〔添付２〕。委任状の提出も含め、多くの方のご参加に心より感謝いたします。

内容としては、定例の議案に加え、第５号議案として「特別支援教育と作業療法委員会」を特設委員会として設置することが承認された。また、第６号議案として、理事会報告として①法人管理の一部外部委託②講師謝金の一部変更③交通費の改定④「おおはいごん」の発行変更について報告があった。いずれも時代の流れに合わせての改定内容であった。特に交通費の改定は、東西に長い島根県において部会などの交通費の費用弁償が、改定されたことにより、今まで以上に東西の交流が図れることに期待する。

平成31年度の総会は、平成３１年６月２日（日）、出雲市内で開催予定している〔添付３〕。また、パワーポイントでの分かりやすいプレゼン資料作りも実施して行きますので、今年以上に多くの会員の方のご参加をお待ちしております。

【総会時の様子】〔添付1〕



【過去６年間の会員数・出席数（出席率）の動向】〔添付２〕

平成31年度　総会のご案内

■開催日：平成３１年6月2日（日）【６月第一日曜日】
■場　所：出雲市内
■企　画：①総会時研修会
　テーマ：「老年期におけるアセスメントについて」
　講　師：寿生病院　祝部　昭子　先生　（副会長・作業療法推進局長）
②総会時研修会
　テーマ：「発達期におけるアセスメントについて」
　講　師：松江総合医療専門学校　福島　由美　先生（発達支援グループ）
③総会時研修会
　テーマ：「協会の最近の動向と県士会重点課題項目について」
　講　師：（一社）島根県作業療法士会会長
　　小林　央　先生（大田市立病院）他
■目標人数：１００名
■その他：会員の皆様に一人でも多くご出席いただけるよう検討して行きます。

【平成３１年度　総会概要（現時点での予定）】〔添付３〕

平成30年診療報酬改定
～作業療法に関わるところの要点～

松江市立病院　岩本　悠

【身体障害領域】

疾患別リハビリテーション（以下、リハ）料

・脳血管疾患等リハ料の対象者について、舌悪性腫瘍等の手術に伴う構音障害を有する患者が追加

・脳血管疾患等・運動器リハ料等の算定日数の上限の除外対象患者として、軸索断裂の状態にある末梢神経損傷（発症から１年以内）、外傷性の肩関節腱板損傷（受傷後 180 日以内）、回復期リハ病棟を退棟した日から起算して３月以内の患者が追加

・医師等の医療従事者の柔軟な働き方に対応する観点から、疾患別リハ料の算定要件において常勤配置が緩和

・要介護・要支援被保険者に対する維持期・生活期の疾患別リハ料について、平成 31 年 4 月以降の算定を認めない

加算

・特定集中治療室管理料に早期離床・リハ加算１日につき 500 点が新設（14 日限度）

・ＡＤＬ維持向上等体制加算の褥瘡に関わる評価が緩和

・入院早期から退院後までの切れ目のない支援を評価した退院支援加算が入退院支援加算に名称を見直し、入院前の支援を評価する入院時支援加算が新設

指導料

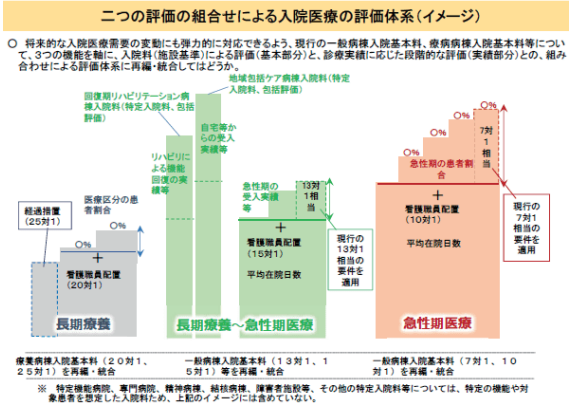
・退院時共同指導において、医師及び看護職員以外の医療従事者（理学療法士等）が共同指導する場合も評価対象（今までの退院時リハ指導料は包括に）

計画書

・リハ総合実施計画書及びリハ実施計画書について、医療と介護で様式を共有化したものを使用、また簡略化したものを使用する場合に評価

【まとめ】

精神科専門療法について職員の専従要件が緩和したが、精神科・認知症・小児領域では作業療法士に関わる所で大きな変化はなかった。今回改定のキーワードは、2025 年問題に向け国が推し進めている地域包括ケアシステム、地域医療構想（機能分化と連携）の２点であった。前々回改定までは、点数や人員基準等の「量」的な改定が主であったが、地域で自分らしい暮らしが最後まで過ごせるようなシステムに移行するべく、病院施設毎また職種間毎の連携といった所の強化が目立った。一つの医療機関での完結は困難であり、自分の収益だけを考えたり、機能訓練メインで「参加」「活動」に焦点を当てていない所は経営が難しくなる。入院医療の評価体系（図）では「基本部分」と「実績部分」に見直され、細かくなった事で今後減算に向けた様々な仕掛けが考えられる。作業療法士 10 万人時代は近い将来訪れ、「量」は確保され今後「質」が問われてくる。当事者の生活行為に焦点を当て、住み慣れた地域で暮らしていく為のマネジメント能力が必要になってくる。



平成 30 年度介護報酬改定の概要

ケアセンターかんど　山根 正範

今回の介護報酬改定は、「Ⅰ．地域包括ケアシステムの推進」「Ⅱ．自立支援・重度化防止」「Ⅲ．多様な人材の各確保と生産性の向上」「Ⅳ．介護サービスの適正化」という 4 つの柱を基本に改定事項が展開され、改定率に関しては全体で＋0.54%と微増の改定となっています。

第 156 回社会保障審議会介護給付分科会より

Ⅰ．地域包括ケアシステムの推進

・リハに関し、医療から介護への円滑移行を図るため、面積・人員要件を緩和するほか、リハ計画書の様式を、互換性を持ったものにする。

Ⅱ．自立支援・重度化防止

・リハビリテーションに関する医師の詳細な指示について、リハビリのマネジメントに関する加算の要件とした上で別途評価する。

・要支援者のリハビリについて、要介護者のリハビリに設けられている、リハビリのマネジメントに関する加算を設ける。

・現在、介護予防通所リハに設けられているアウトカム評価（事業所評価加算：要支援状態の維持・改善率を評価）を介護予防訪問リハにも設ける。

・現在、通所リハに設けられている生活行為向上リハ加算を、介護予防通所リハにも設ける。

・訪問介護、通所介護、特別養護老人ホーム等において、通所リハ事業所等のリハ専門職等と連携して作成した計画書に基づく介護を評価する。

Ⅲ．多様な人材の各確保と生産性の向上

・リハビリテーション会議への医師の参加について、テレビ電話等を活用してもよいこととする（ICT の活用）

Ⅳ．介護サービスの適正化

・訪問看護ステーションからのリハビリ専門職の訪問について、看護職員との連携が確保できる仕組みを導入するとともに、基本サービス費を見直す。

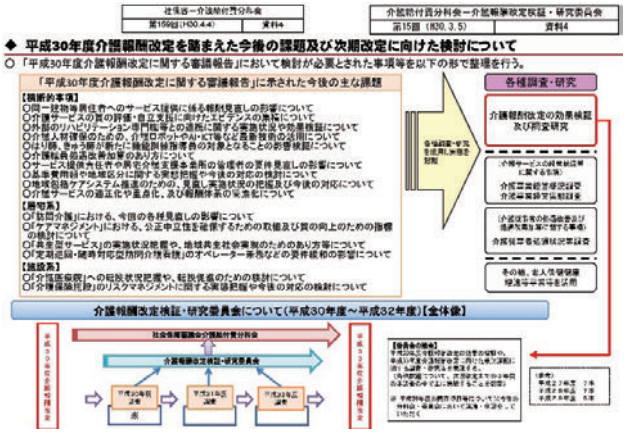
・通所リハ、通所介護等の 2 時間ごとの設定としている基本報酬について、サービス提供時間の実態を踏まえて 1 時間ごとの設定に見直す。

・3 時間以上の通所リハの基本報酬について、同じ時間、同等規模の事業所で通所介護を提供した場合の基本報酬との均衡を考慮しつつ見直す。

【平成 33 年度に向けて】

平成 30 年度介護報酬改定での対応に苦労されている施設や事業所もあるかと思いますが、次期介護報酬改定に向けての議論はすでに開始されています（右資料）。

制度改定は急に決定して示されるのではなく、前回改定の効果検証や予算など、様々な要素を踏まえて議論が進みます。次期介護報酬改定に向けて、作業療法士としてどのように専門性を発揮しながら業務に取り組むのか、議論の方向性もしっかり確認して、早めの情報収集と対応が必要になってくると思われます。



第 159 回社会保障審議会介護給付分科会より

日本作業療法士協会が目指す生涯教育制度のかたち

生涯教育制度推進担当者会議報告　2018-2022

生涯教育制度推進委員とは、生涯教育制度の円滑な推進のため日本作業療法士協会と各県士会のパイプ役として、士会への情報伝達、および情報収集を行う役割を担っています。具体的には士会員からの相談や協会への現職者研修の実績報告などを行っています。

日本作業療法士協会は以下の具体的数値目標を掲げています！
具体的数値目標2018年-2022年
認定作業療法士：2,000人（現在952人、近年は年間100名誕生、島根県は6名）
養成校への配置率100%（2016年：70%）
専門作業療法士：150名（現在延べ105名、島根県は在籍無し）
専門作業療法士分野：研修カリキュラムの改訂を行い、より受講しやすく！

基礎研修終了者（延べ人数）：11,500名（2017年度約8,000名）
認定作業療法士および専門作業療法士が全国で増えています！
当士会も昨年度は2名の認定作業療法士が誕生しました！
今年度も一人でも多くの認定作業療法士が誕生することを期待しています！

2018年の生涯教育制度改定では、研修シラバスの改定が行われた事と、「9：事例検討」が生活行為向上マネジメント基礎研修への参加で履修可能となりました。また、認定作業療法士・専門作業療法士は、取得要件の適正化が図られ、より取得しやすくなっています。
改訂内容について詳しく知りたい方は、日本作業療法士協会誌2018年2月号に概要と解説が掲載されていますのでご確認ください。また、島根県作業療法士会の生涯教育部（shimanekyouiku@gmail.com）までお問い合わせください。その際は、タイトルを「生涯教育制度について」とし、所属と氏名を記載するようにお願い致します。

現職者共通研修予定

現職者共通研修初日 平成30年9月1日（土）	現職者共通研修二日目 平成30年9月2日（日）
①作業療法生涯教育概論： 川上OTR　9：00～10：30	⑥作業療法における協業・後輩育成： 小林央OTR　9：00～
②職業倫理： 泉靖司OTR　10：40～12：10	⑦事例報告と事例研究： 石倉健一OTR　10：40～12：10
③作業療法の可能性： 森脇繁登OTR　13：00～14：30	⑧実践のための作業療法研究： 森脇繁登OTR　13：00～14：30
④日本と世界の作業療法の動向： 森脇繁登OTR　14：40～16：10	⑨事例検討・⑩事例報告（事例検討、発表）14：40～終了予定16時過ぎ
⑤保健・医療・福祉と地域支援： 楠田敦子OTR　16：20～18：10	

※テーマ⑨、⑩は無料。それ以外は1テーマ1,000円ですが、初日全て参加された方、または二日目全て参加された方には各日で1,000円の割引を実施致します。既に受講されている方も基礎ポイントが付与されますので是非ご参加下さい。

共通研修、選択研修の予定は県士会のブロックメールでも広報致します！

新入会の方だけでなく、既存会員の方も新たな学びの場になりますので奮ってご参加ください！

松江市オレンジカフェの紹介

総合病院松江生協病院作業療法士
都田　哲平

H30年4月より松江市主催でオレンジカフェが第3日曜日松江市内イングリッシュガーデン、ステックビル等で開催されており、県士会の認知症チームの活動の一環として参加させて頂いています。他参加者は保健師、看護師、施設・在宅ケアマネ、認知症の方・ご家族様、病院や施設など、２０～３０名程度の方々が参加されています。医療・福祉の場では「患者」と「治療者・支援者」という関係性ですが、「オレンジカフェ」では「生活者」としての当事者に出会えることが大きいと思います。「認知症の人と家族の方が、地域での生活の中でどこにつまずくのか、なにを悩んでいらっしゃるのか教えてもらえることは、作業療法士としてとても大きな財産になると思います。作業療法士としてオレンジカフェに関わることで、将来的には認知症の当事者やその家族が、安心して暮らすことができる地域になるよう、微力ながらお手伝いさせて頂きたいと思います。

オレンジカフェでの活動内容は専門職としての関わりや傾聴、一緒に出来る簡単な体操等の実施です。「生活」の視点から、認知症当事者とその家族、またそれを受け入れる地域のありかたを考えていくために、作業療法士の視点と経験が欠かせないものとなっていくのではないだろうかと考え「地域にとって作業療法士が必要な存在。」となるよう今後も微力ながら活動に参加したいと考えています。

オレンジカフェの様子

平成 30 年度　島根県作業療法士会　交流企画

ボルダリング交流会のお知らせ

今回はボルダリング・食事会を開催する事となりました。話題の人気スポーツで楽しく汗を流した後、美味しい料理を堪能出来る交流会となっております。

交流会を通じて会員の親睦を深め、気軽に勉強会の参加や病院間の連携が図れるきっかけに繋がればと考えています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日時　平成 30 年 9 月 15 日(土)　9：20　～14：00

予定　09:20　現地集合（会場：ボルダベース）
09:30　～11：00　ボルダリング
11:30　～13：30　昼食　ビュッフェ(会場：ニューウェルシティー出雲)

参加費　新人会員 800 円　既会員 1300 円　（食事・道具のレンタル代を含む）

その他　ボルダリング、食事のみの参加も可能です。
子ども参加も可能です。　（但し、ボルダリングは 4 歳以上のお子さんに限りますのでご了承下さい）

参加申し込み方法

下記のフォームもしくは QR コードから必要事項を入力し、送信してください。

フォーム：　https://goo.gl/forms/d62R2S6npKUX97NH2

締め切り：平成 30 年 9 月 1 日　18:00 時までとさせて頂きます。

［交通アクセス］

ボルダリング会場：クライミングスタジオ　ボルダベース　〒699-0624 島根県出雲市斐川町上直江 1263(左図)
食事会場：ニューウェルシティー出雲　〒693-0023　島根県出雲市塩冶有原町 2-15-1(右図)

会員情報登録のお願い

事務局　陶山幸弘

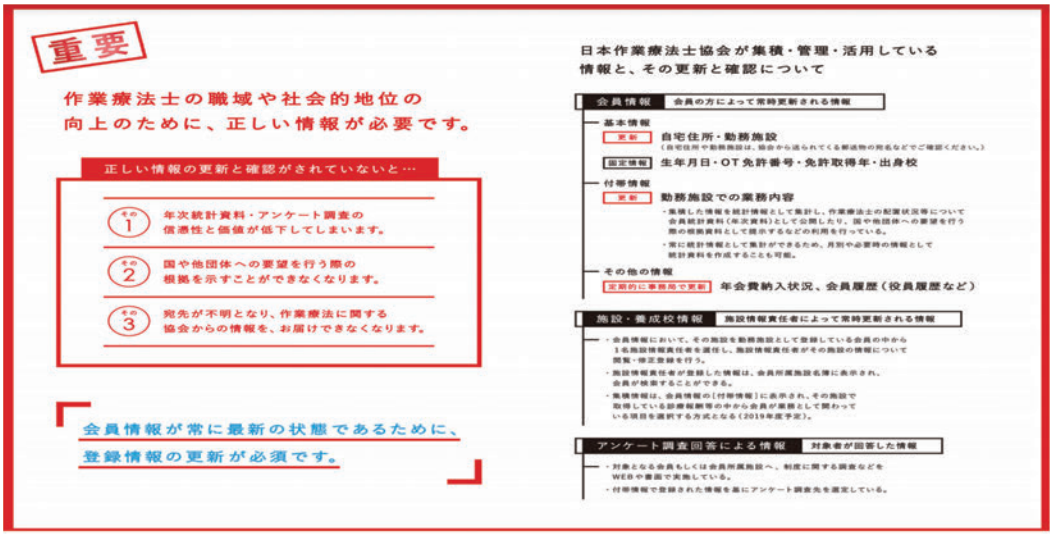
日頃より、県士会へのご協力とご理解を頂き誠にありがとうございます。

今回は、「会員情報登録のお願い」が日本作業療法士協会より、当事務局にありましたので、私からもお願いさせて頂きたく存じます。

すでに複数回にわたり、日本作業療法士協会誌などで、お願いの記事を目にされているかと思いますが、登録完了者の方は島根県では約４０％（２０１７年度入会者・３月末時点）に留まっていること事です。

会員情報登録が、未完了であったり、古いものであると、協会からの情報が皆様に届かない可能性がある他、統計資料としての信憑性が低下し、国や他団体への要望に影響が出てしまいます。

皆様、お忙しい中とは思いますが、日本作業療法士協会ホームページへアクセス頂き、会員ポータルサイトから、登録情報について、今一度ご確認頂きますようにお願いいたします。



たすきりレー

島根リハビリテーション学院

エスポワール出雲クリニックさんから紹介されました島根リハビリテーション学院です。

本学院は長年、地域の皆様や医療関係者からのご支援をいただき、開学 20 年を数えるまでになりました。作業療法学科の教員は現在 7 名で 60 代から 30 代まで幅広いメンバーで教育・研究活動に取り組んでいます。「島リハ」の作業療法学科は今まで培った教員と学生の距離の近さや信頼関係が伝統であり、強みです。学生に近い目線で、これから社会が大きく変化していく中でも変わらない「作業療法士の芯」を持った学生を、教員一丸となって大切に育てていきたいと思います。

次は Community　Care（コミケア）さんよろしくお願いします。

西部島根医療福祉センター

こんにちは。浜田医療センターさんより紹介されました、西部島根医療福祉センターです。

当センターは、病院と福祉施設としての機能を活かし、障害をお持ちの方だけでなく、地域の皆様の多様なニーズに応えるために総合的な医療・福祉サービスを提供しています。

入所では重症心身障害をお持ちの方が多く、外来では脳神経小児科を始め、神経内科や整形外科の患者様の作業療法を行っています。特に、発達障害の子どもさんと関わることが多く、日々皆さんの笑顔を引き出すため元気に頑張っています！是非一度元気な声が溢れる職場へ遊びに来て下さい！

次は、浜田市役所さんよろしくお願いします。

県士会長コラム

会員の皆様のご協力をいただき、島根県作業療法士会という職能団体の代表として 1 年を迎えることができました。

1 年目にはまず、円滑に理事会が進行できるよう情報の整理や課題抽出を行うため三役会（会長・副会長・事務局長）を開催しました。通年で当然取り組むべき課題には審議時間をできるだけ減じ、私たちが『今』取り組まなくてはならない課題にスピード感をもって検討いたします。

例えば、昨今、地域包括ケアというキーワードを耳にしない日はありませんが、現在、県内 6 市町で地域ケア会議の個別ケース検討の助言者に会員が派遣され、地域包括支援センターとの連携を取り始めています。

認知症の人と家族の会と連携し、地域の中で作業療法士が果たせる役割を模索する会員がいます。自動車運転と高次脳機能障害に関する知見を活かし、指定教習所協会の開催する研修会で作業療法を伝える会員がいます。

従事する医療機関や施設にとどまらず、島根県内のどこかの・誰かのためにお役に立てる仕事を担う会員を応援することも士会の役割であり、その活躍を広く伝えることも会長の役割の一つ任期 2 年目も邁進したいと存じます。

便利グッズ♪

～洗顔泡立てグッズ～

これから夏の季節となり汗や皮脂が多くなる時期です。そこで今回は便利グッズとして泡立て器を紹介したいと思います。こちらはご存じの方もおられるかと思いますが洗顔ネットよりもキメの細かな泡を作り出すことが出来ます。

利用方法としては蓋の内側に洗顔料を付けた後に容器に少量の水を入れます。

そして蓋とスティックをセットしスティックを上下に動かすと泡立たせることが出来ます。キメの細かな泡は皮脂汚れに効果的とされていますので是非入浴する際は体験してみてください。

☆簡単☆電子レンジで卵焼き

フライパンを使わずに調理できるので、忙しい時などに役立ちます♪

“男の料理”

<材料>
卵…3個
A白だし…少々
牛乳又は水…少々
とろけるチーズ…1枚
塩コショウ…適量

<作り方>
・卵を深めの器に割り入れ、かき混ぜる。そこにAの材料を入れかき混ぜる。
・器にラップをやさしくかける。
電子レンジにいれ600W1.5～2分かける。止まったら軽くかき混ぜ、もう一度電子レンジへ入れ600W1分程度かければ完成。

材料の準備はフライパンで卵焼きを作る用量でOKです。
ポイントは深めの器を使用すること。電子レンジにかけているときに膨らむので小さい器だと溢れてしまいます。
液量を少なめに入れ小分けにする方法も良いと思います。
チーズを入れることでまろやかな味になりスクランブルエッグのようにとてもおいしいです。また電子レンジへ入れる時間を調整することで半熟加減でもおいしいですよ♪野菜なども付け合せがあれば色味もよくなり忙しい朝食の一品にしたりできます。

ジャスミンのちょっと一言いいかしら　「取り戻す」

今年もあっという間に後半戦が始まりました。年齢を重ねると1年がどんどん早くなる。太るのも丸くなるのも、あっという間。だけど脂肪の燃費は落ちていく一方。旧車の様ね。どうぞよろしく。ジャスミンよ。

総会で議案にあがっていましたが、このおおはいごんもIT化の流れを汲んで、10月号より完全にデータ化されるわ。紙媒体の方が温かみを感じる私としては少しさびしいけど、それも世の常ね。ちなみに皆様の下には配信はされないので、適宜県士会HPをチェックしてちょうだい。

さて、仕事をする上で数年前に担当していた患者様にお会いする事があります。「元気だった？」「まだギター頑張ってる？」「あれ、太った？」どれもありがたいお言葉です。今の自分は元気でもないし太ったし、ギターも弾いてない。患者様からの言葉は、その当時の自分は何を栄養に生きていたのか、自分自身のQOLは今どうなのか。そんな振り返る機会を与えて下さります。今一度あの時の想い、ボディを取り戻すため、身を引き締めて仕事に臨んで行きたいと思います。今年度もよろしくね。

平成30年7月20日　現在　施設数132　会員数503名

一般社団法人 島根県作業療法士会ニュース　年3回発行
□編集担当　白鹿真之介・石倉健一・岩田竜太・足立貴哉・山崎真梧・高木良大・和久利洋平・長谷川藍・山根結衣・石田敦史
□投稿（400字程度）、提案、情報提供を歓迎します。

発行所　〒692-0011　島根県安来市安来町899-1
一般社団法人 島根県作業療法士会広報部 社会医療法人 昌林会
介護老人保健施設 昌林会（TEL 0854-22-1234　FAX 0854-22-5827）
発行者：小林　央／編集者　石倉健一・白鹿真之介
印　刷：障がい者支援施設　授産センターよつば（〒690-0131　松江市打出町43）